

Y3-10

阪神・淡路大震災の拠点病院となった神戸赤十字病院の東日本地震時の初動行動

神戸赤十字病院 整形外科¹⁾、
薬剤部²⁾、看護部³⁾、事務部⁴⁾、
リハビリテーション部⁵⁾、検査部⁶⁾、
放射線部⁷⁾、日本赤十字社 兵庫県支部⁸⁾
戸田 一潔¹⁾、山岸 雄幸²⁾、葛島 元子³⁾、
横山 杏花³⁾、菊川 佳子³⁾、久貝 美和³⁾、
岡田 浩明⁴⁾、高本 浩路⁵⁾、安部 史生⁶⁾、
沖野 恵司⁴⁾、上江 孝典⁷⁾、浅田 恒生⁸⁾、
北村 幸司⁸⁾

【はじめに】災害初動時の救護員の行動に限定し、東日本大震災時の当日の行動をもとにその改善点を調査したので報告する。

【方法】1) 初動班13名に、派遣終了直後に、出勤までの行動を列記させ、集計し、8項目に分けた。2) 大項目は、A. 気持ちの整理、B. 家族との連絡、C. 留守中の業務調整、D. 個人装備、E. 各自の業種別救護資機材の積み込み、F. 発災状況の確認、G. 連絡方法の確立、H. 同行員の確認、となった。13名に1～4の質問を行った。＜1＞出勤までに行った順番は？＜2＞次回の派遣があった時の順序は？＜3＞初動班を成功させる鍵は？（3つ選択）。＜4＞大項目に小項目を設け、用意した項目にチェック式で回答。

【結果】各自が選択した項目の順序を得点化した、その結果は、1) 派遣前後ともA. 気持ち、B. 家族、C. 仕事、F. 状況、が上位4つを占めた。2) 前後で、点数を伸ばした項目はF. 状況とG. 連絡方法であった。3) 成功の鍵は断トツで同行員を挙げた。4) チェック式回答から、具体策とそのランキングが出た。

【考察】初動の行動としては、1) 災害の状況を確認し、2) 家族に連絡、通常業務の引継ぎを行い、3) 体調を確認し、4) 個人の装備を始め、5) 同行メンバーと合流し、6) 資機材を搭載する、となった。成功の鍵は、『不足する資機材・情報と過酷な環境を冒険小説さながら、信頼する仲間と臨機応変に、知恵と勇気で乗り越えていく！』となった。また、小項目を加えた初動班の行動をサブノートとして、各救護員に配布することにした。

Y3-11

救護派遣前の災害時高齢者生活支援講習の試み

長野赤十字病院 看護部
宮澤美津子、畠山 悦子、坂口 直子、
丸山 妙子、小林 直子、酒井志津子

【はじめに】今回の東日本大震災の救護に看護部は37名の看護師が参加した。（5月31現在）こころのケアの準備として救護派遣前に「災害時高齢者生活支援講習」を取り入れ、一定の効果をえたので、報告する。

【方法】1. 対象：救護班およびこころのケア要員の看護師 2. 講習内容：a災害について b災害が高齢者に及ぼす影響 c接する時の心づかい d気をつけたい病気や症状＝生活不活発病・脱水・かぜ、インフルエンザ・食中毒 e知って役立つ技術：トランスファー・清潔ホットタオルの作り方、足浴の方法、リラクゼーション、レクリエーション fボランティアの心得

【結果】こころのケア要員が派遣される様になってから17名の看護師に短期講習を行った。災害時高齢者生活支援の技術を知る機会のない看護師は良い機会となった。実際に技術がこころのケアに活かされた。

【考察】救護派遣前でも講習は有用である。病院内でも機会を捉えて同講習を行う。救護員、職員、地域の住民に広めてゆく。

【まとめ】1災害時高齢者生活支援講習の技術は救護班派遣の事前学習にも有用である。2地域はもちろん院内に向けて災害時高齢者生活支援講習を行ってゆく。